

ここ数年でよく聞くようになった言葉にSDGsがある。まるで流行のように急速に広まった感がある。だが、私がこの言葉を口にするのは滅多にない。なぜなら、まだよく理解していないからである。理解できていない言葉は、使わないようにしている。

SDGsのままではよくわからない。そこで、日本語にしてみる。Sustainable Development Goalsだから、「持続可能な開発目標」となる。訳してもよくわからない。そこで、これが出てきた背景や経緯が必要となる。

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されたものである。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本でも積極的に取り組んでいる。

疑問がある。今までも、何年までにこれをしましうのようなものはあった。特に、環境問題の分野に多い。しかし、効果はというとどうだろうか。SDGsは、明らかに今までのものとは動きが違う。早い。勢いがある。なぜなのだろうか。2015年に決めて2030年が年限という期間が短い点がいいのだろうか。

17のゴールの内容がいいのだろうか。貧困、飢餓、保健、教育、ジェンダー、水・衛生、エネルギー、成長・雇用、イノベーション、不平等、都市、生産・消費、気候変動、海洋資源、陸上資源、平和、実施手段と多岐にわたる。SDGsというと、環境問題というイメージがあるかもしれないが、そういうわけでもない。

これらのことに、世界中の国々が本気で取り組めば、何かが変わるかもしれない。日本での取組を見てみると、企業が参加している点が大きいに思う。企業には、推進力がある。経済界が動くと、物事は進みやすい。

17のゴールは、そのまま教育に使える。今、求められていること、これから取り組むべきことが入っている。2030年には、今の中学生たちは、成人している。その頃には、どのくらいゴールやターゲットが達成されているだろうか。楽しみである。もちろん、私自身も努力しなければならない。

気になるのは、流行のような広がりをしている点である。流行は、そのうち冷める。2023年はSDGsの中間年だった。まだ、半分である。今年、2024年からは、取組の後半期間に入る。SDGsのキーワードは、「サステイナブル」と「誰一人取り残さない」である。持続できなければならない。維持させなければならない。そのためにも、学校教育におけるSDGsの取組が重要である。